

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:110~115.

乳房切除術を受ける女性患者の恥ずかしさと手術室看護師の介入の評価

後藤緑 佐藤綾香 増山美紀 山近真実 本間敦

# 乳房切除術を受ける女性患者の恥ずかしさと手術室看護師の介入の評価

旭川医科大学病院手術部ナースステーション

後藤緑 佐藤綾香 増山美紀 山近真実 本間敦

## I. はじめに

乳房切除術を受ける患者に術前訪問を行った際、「手術室ではいつ服を脱ぐのでしょうか」という質問を受けたことがあった。また手術部位を確認する時に小さな声で答える患者もいた。

石川らの研究より、乳房を露出することに対して女性は男性よりも強く恥ずかしさを感じているという結果が出ている。<sup>1)</sup> 乳房は女性の象徴であることや、乳房自体が性的象徴であることから、女性が乳房の露出に対して恥ずかしく思うのは、女性特有のものであると考える。特に、乳房切除術を受ける患者は乳房が手術部位であるため、この恥ずかしさが強いと考えた。

手術室看護師として、乳房切除術を受ける患者に対してこのような思いに配慮した介入を行っているが、上記のような発言や行動が見られたことから、私達が行っている介入は患者の思いに沿ったものであるのかという疑問が浮かんだ。

そこで、乳房切除術を受ける女性患者を対象に乳房の露出による恥ずかしさの有無を明らかにし、手術室看護師の介入を評価した。

## II. 研究目的

乳房切除術を受ける女性患者の乳房の露出による恥ずかしさの有無を明らかにし、手術室看護師の介入の評価を行う。

### 《用語の定義》

・恥ずかしさ：乳房が露出されることで生じる羞恥心や乳房の露出を避けようとする行動

## III. 研究方法

1. 研究期間：2011年9月～同年10月
2. 対象：全身麻酔下で乳房温存手術を受けた患者8名
3. データ収集方法

1) 通常の術前訪問時の説明に加え、手術室入室から麻酔導入までの①部位確認の場面 ②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面 ③モニター装着の場面 ④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面での手術室看護師の介入について説明した。

2) 研究者が外回り看護を行いながら上記の4場面における看護介入時の患者の行動を観察し記録した。

3) 手術後2～3日の患者の状態が落ち着いた頃、患者を訪問しインタビューを行った。作成したインタビューガイドに沿って、上記の4場面において「乳房の露出に対する思い」と「手術室看護師の介入に対する思い」について聞いた。

### 4. 介入方法

#### ①部位確認の場面

手術室ホールに入室した患者を個室に移動させ、手術する場所と左右を確認した。

#### ②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面

入室後、上に着ている病衣を1枚脱いでもらうことを説明し、病衣を脱ぐ際には看護師が介助した。病衣を脱いだ後、肩にタオルを掛けた。

#### ③モニター装着の場面

手術台に横になった際に肩から胸にかけてバスタオルを掛ける。心電図モニターを胸の3か所に装着することを説明し、バスタオルの下で肩のボタンを外しモニターを装着した。

#### ④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面

これから掛け物の中で手術衣を脱ぐことを説明。その後、掛け物の中で手術衣の紐を解き、一人は掛け物がずれないように押さえ、他の外回り看護師が手術衣を引き抜いた。

## 5. データ分析方法

録音したインタビュー内容を逐語録に書き起こし、それぞれの場面での「乳房を露出することへの思い」と「手術室看護師の介入に対する思い」を分類した。

## 6. 倫理的配慮

対象者に研究の主旨、プライバシー保護に留意し、得られた情報は個人が特定されないように配慮することを口頭及び書面で説明し、同意書に署名を得た。

## IV. 結果

対象者は初めて乳房温存手術を受けた患者8名で、平均年齢は69.5歳(45～82歳)であった。

### 【①部位確認の場面】

8名全員が看護師の目を見て手術部位(乳房・左右)を口頭で答えていた。

乳房の露出に対して、「手術する場所と分かっていたから気にならなかった」が4名、「緊張していて覚えていない」が3名、「前日に説明があったので気にならなかった」が1名であった。看護師の介入に対して、「個室に移動したことで人の目が気にならなくて良かった」が3名、「前日に説明があったので良かった」が2名、「覚えてない」が2名、その他1名であった。

### 【②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面】

病衣を脱いだ後、胸元の合わせを直した対象者は4名であった。

乳房の露出に対して、「医療関係者だったので気にならなかった・言われた通りにするだけ」が3名、「緊張していて気にならなかった」が2名、「事前に説明があったので何とも思わなかった」が1名、「年齢的に気にならなかった」が1名、「覚えてない」が1名であった。看護師の介入に対して、「タオルを掛けて頂いたので気にならなかった」が3名、「前日に説明があったので良かった」が2名、「覚えていない」が1名、その他2名であった。

### 【③モニター装着の場面】

モニターを装着した後、バスタオルを引き上げる等の行動は見られなかった。

乳房の露出に対して、「緊張していて覚えてない・気にならなかった」が3名、「(看護師の)仕事だから仕方ない」が2名、「年齢的に何とも思わなかった」が1名、その他2名であった。看護師の介入に対して、「配慮して頂いた・良かった」が7名であり、その中で「上に掛け物を掛けて頂いたので良かった」という思いが聞かれた。また、「覚えていない」が1名であった。

### 【④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面】

患者は看護師の説明に協力しており、病衣を脱いだ後に掛け物を引き上げる等の行動はなかった。

乳房の露出に対して、「年齢的に気にならなかった・若い人じゃないんだから」が5名、「お任せする気持ちが強かった」が2名、「(看護師の)仕事・手術だから仕方ない」が2名、「掛け物の中で脱いだので気にならなかった」が1名、「覚悟していたので気にならなかった」が1名であった(複数回答あり)。看護師の介入に対して、「配慮して頂いた・良かった」が8名で、その中で「前日に説明があったので良かった」が1名、「掛け物の中でやってもらって良かった」が2名であった。

4つの場面における患者の思いを大きく分類すると、「手術だから・(看護師の)仕事なので・事前に説明を受けていたので気にならない」、「緊張していた」、「手術だから・年齢的に仕方ない」、「お任せする」という思いに分かれた。

## V. 考察

私達は今回、乳房切除術を受ける患者は乳房を露出することに少し恥ずかしさがあるのではないかとこの予測のもと本研究を行った。しかし、実際には4つの場面において乳房を露出することに恥ずかしさを示す患者は見られなかった。

【①部位確認の場面】での乳房の露出に対する思いは「気にならない」が多く、手術室看護師の介入に対しては「事前に説明があったのが良かった」という思いが聞かれた。

伊藤らは「羞恥心は(中略)患者が術前に予測していなかったことが起きたことがさらなる増強の要因となっていた。」と述べている。<sup>2)</sup>この場合、術前訪問で手術室看護師の介入や病衣・手術衣の脱ぐタイミングを説明したことで患者は乳房を露出することに心構えが出来た。そのため、乳房の露出による恥ずかしさが抑えられ、乳房の露出に対して「気にならない」という思いとなったのではないかと考える。

また、介入に対し「個室に移動したので良かった」という思いもみられた。手術室ホールは大きく、目の前にはガラス張りの連絡室があり、多くのスタッフが仕事をしている。そのような多くの目に晒される場所で患者は恥ずかしさがあったのではないかと考える。しかし、個室に移動したことで人目を気にすることなく答えることが出来ていた。患者のプライバシーに配慮したことが患者の思いに配慮した看護へと繋がったのだと考える。

【②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面】では、看護師の介入に対して「タオルを掛けてもらって良かった」という思いがみられた。手術室で使用している手術衣は生地が薄く、胸元がはだけやすい。また、1枚上に着ていた病衣を脱ぐのに伴い、手術衣も引っ張られ乳房を露出する可能性が高くなる。しかし、病衣を脱ぐ際に説明を行ったことや手術衣の上に1枚バスタオルを掛けたことで胸元を隠すことができ、恥ずかしさに配慮した介入に繋がったのではないかと考える。

【③モニター装着の場面】では「緊張していた」「仕方ない」という思いが多く、「緊張していた」という思いは前の場面より増えている。緊張とは、これから物事が起きることに対して待ち受けている心の状態のことを指す。この時の患者も手術台に横になったことでいよいよ手術が始まるのだと気が張り詰めた状態になり、その結果、

緊張が高まり恥ずかしさを上回ったのではないかと考える。

【④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面】では「仕方ない」という思いが一番多く、「お任せする」という思いも増えている。石川らは高齢者の特徴として、「恥ずかしいということをお口にすることはいけないことである、という認識からか、インタビューの中で『もう年だからね』『病院・手術だから仕方ない』という、あきらめの言葉によって手術衣に対する羞恥心を表現しているのではないかと考える。」<sup>3)</sup>と述べている。これまでの患者の行動や看護師の介入への思いから、年齢的に気にしてないとは言っているが少なからず乳房の露出に対して恥ずかしさがあると考えられる。しかし、この時期は麻酔導入が差し迫っており、また看護師の介入を受ける受動的な立場にあるため、恥ずかしさよりも手術を受けなければという思いが先行していたのではないかと考える。そのため「仕方ない」「お任せする」という思いがみられたと考える。

【③モニター装着の場面】【④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面】では、共に看護師の介入に対し「配慮してもらったと思う・良かった」という思いが半数以上だった。これまでの乳房を露出する思いや看護師の介入への思いから、明確には出来なかったが患者は恥ずかしさを感じていると推測される。しかし、掛け物を引き上げたり胸元を気にする等の行動が見られなかったことから、患者の思いに沿った介入が行っていたのではないかと考える。

## VI. 結論

1. 乳房切除術を受ける女性患者の乳房の露出による恥ずかしさはみられなかった。
2. 乳房を露出する思いは、「気にならない」「緊張していた」「仕方ない」「お任せする」であった。
3. 術前訪問や乳房の露出への配慮は恥ずかしさに配慮した介入へと繋がる。

## VII. 引用・参考文献

〈引用文献〉

- 1) 3) 石川しのぶら：高齢者の羞恥心の比較検討—手術衣と検査衣の着用を試みて—, 老年看護, 2002
- 2) 伊藤奈美ら：碎石位で意識下手術を受ける女性患者の羞恥心, 成人看護 I, 2003

〈参考文献〉

- ・メイブ・ソルター：ボディイメージと看護, 医学書院, 1992
- ・岡堂哲雄ら：老人患者の心理と看護 第8版, 中央法規出版, 1995

# 乳房切除術を受ける女性患者の 恥ずかしさと手術室看護師の介入の評価

旭川医科大学病院  
手術部ナースステーション

○後藤緑 佐藤綾香

山近真実 本間敦

# I .はじめに

## 乳房切除術を受ける患者から

- ・「手術室ではいつ服を脱ぐのでしょうか？」という質問
- ・手術部位を確認する時に小さな声で答える様子

乳房の露出に対する恥ずかしさは女性特有のもの

「私達の行っている看護介入は  
患者の思いに沿ったものであるのか？」

## Ⅱ.研究目的

乳房切除術を受ける女性患者の乳房の  
露出による恥ずかしさの有無を明らかにし、  
手術室看護師の介入の評価する

### 《用語の定義》

#### 【恥ずかしさ】

乳房が露出することで生じる羞恥心や乳房の露出  
を避けようとする行動

## Ⅲ. 研究方法

1. 研究期間：2011年9月～同年10月

2. 研究対象：

全身麻酔下で乳房温存手術を受けた女性患者8名

3. データ収集方法：

1)術前訪問時、①部位確認の場面 ②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面 ③モニターを装着する場面 ④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面の手術室看護師の介入について説明

2)4場面における看護介入時の患者の行動を観察し記録

3)術後訪問時、4場面における「乳房の露出に対する思い」と「手術室看護師の介入に対する思い」について情報収集

## 4. 各場面と介入方法

### ①部位確認の場面

患者乗り換えホールの個室に移動し、手術部位(右・左)を確認

### ②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面

手術室入室後、2枚着ている上の病衣を脱ぐことを説明  
病衣を脱いだ後、タオルを肩に掛ける

### ③モニターを装着する場面

肩から胸にかけてバスタオルを掛け、その下で肩のボタンを外しモニターを装着

### ④掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面

一人の看護師が掛け物がずれないように押さえ、もう一人の外回り看護師が手術衣を取り除く

## 5. データ分析方法

4場面での「乳房の露出に対する思い」と「手術室看護師の介入に対する思い」を分類



## IV. 結果

### ① 部位確認の場面

#### ● 患者の行動

看護師の目を見て手術部位を口頭で答える…………… 8名

#### ● 乳房の露出に対する思い

「手術する場所と分かっていたから気にならなかった」 4名

「緊張していて覚えてない」…………… 3名

「前日に説明があったので気にならなかった」…………… 1名

#### ● 手術室看護師の介入に対する思い

「個室に移動したので

人の目が気にならなくて良かった」…………… 3名

「前日に説明があったので良かった」…………… 2名

「覚えてない」…………… 2名 「特になし」…………… 1名

# IV. 結果

## ②入室後に病衣を1枚脱ぐ場面

- 患者の行動      胸元の合わせを直す…………… 4名
- 乳房の露出に対する思い
  - 「医療関係者だったので  
気にならなかった、言われた通りにするだけ」… 3名
  - 「緊張していて気にならなかった」…………… 2名
  - 「事前に説明があったので何とも思わなかった」…… 1名
  - 「年齢的に気にならなかった」…………… 1名
  - 「覚えていない」…………… 1名
- 手術室看護師の介入に対する思い
  - 「タオルを掛けていただいたのが良かった」…………… 3名
  - 「前日に説明があったので良かった」…………… 2名
  - 「特になし」…………… 2名      「覚えてない」…… 1名

## IV. 結果

### ③モニターを装着する場面

#### ●患者の行動

バスタオルを引き上げる等の行動……………該当者なし

#### ●乳房の露出に対する思い

「緊張していて覚えてない、気にならなかった」…………… 3名

「(看護師の)仕事だから仕方ない」…………… 2名

「特に気にならなかった」…………… 2名

「年齢的に何とも思わなかった」…………… 1名

#### ●手術室看護師の介入に対する思い

「配慮してもらって良かった」…………… 7名

(「上に掛け物を掛けていただいたので良かった」)

「覚えていない」…………… 1名

# IV. 結果

## ④ 掛け物の中で手術衣を脱ぐ場面

### ● 患者の行動

掛け物を引き上げる等の行動……………該当者なし

### ● 乳房の露出に対する思い

「年齢的に気にならなかった」…………… 5名

「お任せする気持ちが強かった」…………… 2名

「(看護師の)仕事だから、手術だから仕方ない」… 2名

「掛け物の中で脱いだので気にならなかった」…… 1名

「覚悟していたので気にならなかった」…………… 1名

### ● 手術室看護師の介入に対する思い

「配慮してもらって良かった」…………… 8名

〔「前日に説明があったので良かった」  
「掛け物の中でやってもらって良かった」〕

## IV. 結果

### 乳房の露出に対する患者の思い

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・手術する場所だから、<br/>（看護師の）仕事だから気にならなかった</li><li>・事前に説明を受けていたので気にならなかった</li></ul> |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・緊張していたので覚えてなかったです</li><li>・緊張していたので気にならなかった</li></ul>                       |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・手術、（看護師の）仕事だから仕方ない</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・年齢的に気にならなかった</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・お任せする気持ちが強かった</li></ul>   |

# V. 考察

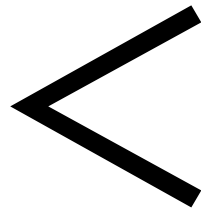
- ・胸元の合わせを直す仕草
- ・「個室に移動したので人の目が気にならなくて良かった」という発言
- ・「タオルを掛けてもらって良かった」という発言

乳房の露出による恥ずかしさがあるのではないか

手術が差し迫った状況

患者は看護師の介入を受ける受動的な立場

恥ずかしさ



手術を  
受けなければ  
という思い

# V. 考察

## 術前訪問

患者が体験する  
処置の説明

病衣・手術衣を  
脱ぐタイミング  
の説明

乳房の露出に  
配慮した介入

胸元にバスタオル  
を掛ける

掛け物がずれない  
ように押さえる

プライバシーに  
配慮した介入

個室に移動して  
部位確認を行う

恥ずかしさに配慮した介入

## VI. 結論

1. 乳房切除術を受ける女性患者の乳房の露出による恥ずかしさはみられなかった
2. 乳房の露出に対する思いは、「気にならない」「緊張していた」「仕方ない」「お任せする」であった
3. 術前訪問や乳房の露出への配慮は恥ずかしさに配慮した介入へと繋がる